

新山協ニュース

▲ 発行者 井出 秀雄 ▲ 発行所 新潟県山岳協会
〒940 長岡市学校町3-11-7 藤井 信方 TEL 0258-32-4835

日本山岳協会自然保護委員

総会に参加して

自然保護委員長

七 沢 恭四郎

平成9年度(旧)日本山岳協会自然保護委員総会が、青森県山岳連盟主管の元に、10月18日(19日)に下北半島川内町湯ノ川温泉で開催され、本県から七沢・本間・大場の3名が出席した。

総会は下山理事長の開会の挨拶、山本日山協副会長、佐久間日山協自然保護委員長の主催の挨拶、松島岳連副会長等の挨拶の後登山家の根深誠氏から「白神山問題・今後の方向づけについて」の題目で次の内容の講演があった。白神山の位置と世界遺産に登録された面積。入山規制の問題を提起した林道建設による皆伐計画の経緯と反対運動の経緯。

特に世界遺産に登録されてからは、貴重な自然だからという事で立入禁止が前提条件となり、青森・秋田両宮林局、環境庁、青森・秋田両県で組織された「白神山世界遺産地域連絡会議」で27のルールが指定され、それ以外は立入禁止の答申が発表されたが、

指定ルートも安全ではないこと
から、東京第二弁護士会の実地調査でも、自然は国民の共通の財産であるという立場から、入山規制は違憲な規制であるという見解であるという。

入山申請については、指定ルート27は全て青森県側にあり、深浦・鯉ヶ沢・弘前営林署の管轄内にあるため、直接持参するか、郵送の場合は入山希望日の7日前までに到着することになっており、許可しない場合は文書で通知するが、来ない場合は入山が許可されたとということで処理しているとのこと。

入山の際には申請書の写を携帯し、提示の求めに応じなければならぬとのこと。
本ルートを制定するに当たり、青森岳連からも資料を提供したが、入山者からの情報収集であり、現況を明らかにするものであり、日山協・労山・未組織登山者等にも知ってもらいたく協力してもらったとの発言もあった。
また、ユネスコ本部世界遺

評議員会案内

日時 1998年4月11日(土)
午後1時
場所 万代市民会館
新潟市東万代9
申込 長岡市大積町2丁目
乙735甲 杉本方
☎0258-47-0368
懇親会 午後5時～
会場：長寿寮
会費：4,000円

理事会開催案内

評議員会に先立ち同会場にて、理事会を開催します。
役員、理事、委員各位は10時までに参加願います。

産センターのハロルド・エイズウィック上級専門官の言葉を引用して、

「管理計画は、一般の人々がそれを利用できるための仕組みを作りあげるためにあるべきであり、なぜなら、世界遺産を利用することによって人間は自然を理解でき、そして、そこで得られた自然への理解を通じて、自然を守ろうという人間の連帯を強められるからである。」自然を理解することは、自然を自ら体感することであり、登山という行為は、最も自然を体感できるものであるとの考えを発言された。

次いで、むつ山岳会の濱石基陸氏から「青い霧下北半島」という題目で次のような内容の講演があった。

四方海に囲まれ、日本三大美林のヒバ、ブナを中心とした下北半島の自然について話があり、特にこれらの混成林から大量の樹液が発散されて、

山が青く見える時があり、これが霧であり、青い(BULE)もや(HAZE)、樹木から揮発する有機物質を中心とした粒子であるとのこと。
また日本は古来より、サクラ餅・カンワ餅、ササ飴といった植物の葉で食物を包みその香を楽しんできたが、人間に対する病源となる腸内細菌を殺す樹木の効用するという内容であった。

議事として、各岳連からの提案があり、東京の御前山のカタクリの保護、山のトイレ問題、ペットを連れての入山者への注意方法等について討議されたが、特に携帯トイレの新製品と試作中の発表、救助犬の入山が論議されたが、次回でも討議することとなった。

次回は平成10年10月31日(11月1日)の日程で愛知県鳳来町に決定された。
懇親会の席上、各岳連から昨年の津南町での総会のお礼の言葉をいただいた。

「黒姫山」'97中高年 登山教室実施報告

中高年登山委員長

坂井 厚

行動概要

第一日 9月6日 曇

一段と高齢化が進み長寿世界一となった日本。登山でみる何処の山も、若い人より中高年が圧倒的に多い。単独・グループ・夫婦など多様です。

それに伴って登山事故も殆どが中高年です。当委員会では少ない陣容で、未組織一般登山者に対して事故防止の啓蒙をと登山教室を実施して7年目となりました。

笹川スポーツ財団より、SFスポーツエイド助成事業が認められ、新潟県教育委員会、(財)新潟県体育協会、県長寿社会振興財団、県公民館連合会、市教育委員会、(財)新潟市体育協会の後援を得、広報は口コミ・ポスター、6月8日の「市報にいがた」、6月10日の新潟日報掲載で努めたところ、申込者多数となり断りきれず、13名増しと枠を拡げて実施となった。

受付集合の新潟市宮陸上競技場を予定より早く出発でき、車内では車長から本登山教室の意義、一般的なツアーでなく安全登山のための登山教室であることを説明する。

各リーダー、サブリーダーからは所属山岳会と登山への姿勢が話され、装備の有り方に触れて、サブリーダーのリユックの中の持参品を公開し、購入には経験者同行してもらおうという有効な助言を行って参加者とのコミュニケーションを図った。

委員長の開講宣言に次いで登山教室の日程・リーダーの紹介を行った後に講演に入った。まず名誉会長の室賀輝男氏から『どのような時に事故が起きるか』という題で講演があった。

登山は、かつては若者の世界であったが、スポーツの多様化が進み若者に替わって、

何処の山でも中高年登山が盛んになり、中高年だけの山岳会もできています。これは余暇

の活用と健康保持は望ましいことであるが、一方では中高

年の山での事故多発が大きな社会問題となっている。昔は

言うことを聞かなかった若い人達であったが今は中高年。

それを統計で見ると80年88%、85年86%、89年89%、93年73%、95年88%、96年

で82%となっている。

今春県内で事故死者11人、

昨年は5人で倍増している。

県内の傾向としては山菜採りで県外者は40〜80歳の中高年

が目立つ。その要因として

一、無理をしたとき

二、油断をしたとき

三、装備・食糧に問題があったとき

四、体力不足、体調の異常が発生したとき

五、急激な気象変化があったとき

六、道に迷ったとき

の力を一歩下がって考えて登山しよう。

登山事故の場合、リーダーの責任は重い。日本山岳協会では山岳共済制度で事故に

対応している。昔は後始末がで

きなくて夜逃げなどもあったが、社会変化が通信手段の発

達している現在、県警、消防

防災航空等すぐ行政は対応でき

るようになってきているが、家族に悲しみを起してはならない。

事故の無い楽しい登山で高齢化社会を生きましよう

と結ぶ。

次いで平田副会長から次のような挨拶があった。

現在の中高年登山者は、

一、昔から登山している人

二、中断して再開した人

三、定年・子育てが一段落で最近始めた人

などに分けられ、近年、新聞やテレビで中高年登山者の事故が報じられています。

この二日間参加されている間に、登山のいろいろな技術・知識を身につけて、安全登山に心がけていただきたく、今回指導する協会の役員は、立派な登山家ですので、期待に沿うような登山教室になることだろうと思っていますので

楽しい登山を願っています。

山岳スポーツ指導員の加藤記代子さんからは『登山スタイル』について講演があった。

登山の目的が登頂か、観察の楽しみかなどで登山スタイルもさまざま、それによって歩行も違ってくる。女性としておしゃれをしたい。きれいな姿でありたいとは誰しも持っています。最近気付いたこと

一、シャツ・上着をスラックスの外に出すか出さないかでスタイル・保温に変化が出て来る。

二、ウエストポーチを前にしているのは、足の上下に邪魔になりはしないか。

三、ポケットの沢山ついたチヨッキは釣りからの発想で、それ程までしなくとも良いのではないか。

薄着で重ね着を、マナーとしては自然保護、水に解けるティッシュの使用、登り優先も時・処によって変わってくるのではないかと手短かに話された。



挨拶する 平田副会長



黒姫スキー場を 下山する参加者



今回のコース説明を環境庁
自然公園指導員の加藤明文氏
から概要説明があった後開講
式の終了となった。

行動概要

第二日 9月7日 曇・雨

薄明り中、黒雲が山の端に
かかっている。3台のバスに

宿舎へ戻ることになった。

先導が花の咲いている草花
に名を記した黄色の紙テープ
が付してある。アケボノソウ、
ツリフネソウ、サラシナショ
ウマ、ウツボグサ、ハンゴン
ソウ等、リーダーより一般参
加者に詳しい方も居る。

特徴の無い林道の分岐(笹ヶ
峰、古池方面)では、先導の
矢印テープを無視して違う方
に行き、地図と照合する。登
山道など時として誤りもある
ので、付近の地形など照合す
る際注意が必要と話す。

標高一、二八〇mの登山口、
是より左へ山路は細い。落葉
松・白樺の混生林、林床に千
鳥笹が現れる。一、四八五m
鉢巻歩道の分岐、ブナ、岳カ
ンバの混生。

9時、一班のK夫婦が遅れ
気味とのこと、ゆっくり登る
よう指示。一、七〇〇m付近
からは急坂。稜線に出る。雲
霧で視界は四・五〇m。林床
にエゾリンドウが見れるよう
になった。時折濃い雲霧の中、
一、九九八m峰近くになると
やや強い風、気温も下がって
肌寒い。三班が10時28分に七
ツ池着の連絡が入る。最後部
近くの自分とは小一時間程の

差が出ている。

火口原への分岐、狭い稜線
に上下のすれ違いは、百名を
超える多数だと整理されても、
僅かな混雑と賑やかさがある。
少し傾いた祠のある山頂は
20数人も立てば人数超過、展
望盤もあるが残念ながら視界
は効かない。

山頂を後にする。講師と収
容班役員を超越し火口原方面
へと下がり初めて間もなく、
下山口から逆コースを登って
きた自主支援班が居り、体調
を崩した参加者が仰向けに伏
せており、蒼白の顔面に呼吸
も脈も少し早い感じが見れた。
医師も到着し、模様を看るこ
とにしたが、火口原に到着し
ている本隊から疲労で動けな
い女性も出た旨の連絡が入っ
た。投棄で安静となり、足の
引きつりも直った。

講師の助言もあり、本隊よ
り2名の応援を得て自主支援
班の車を下山口から入山口に
再度廻るよう無線で指示、一
名のサブリーダーを本隊に引
き返すよう指示。食事恢復を
待つて私らは入山口へ戻ること
にし、休憩を繰返しながら
下山する。
入山口へは支援班の車が到

着しており、宿舎からの車も
到着し、分乗し下山口のコス
モス園へ向かう。

本隊は、山頂下の分岐より
大池方面へ暫し悪路に悩まざ
れたが、火口原七ツ池の付近
にそれぞれ集まり休憩するが
残念な天候だ。体調を崩した
女性等も各班に復した。

ここからは、緩やかな登り
に薄暗い林相、黒姫乗越から
下り。越見尾根から姫見台は
やや起伏のある水平道。姫見
台から直に急なスキー場の斜
面、電光形、真つすぐの路も
あり、こまめのルートマーク
の取付け、白いウメバチソウ、
紫色のエゾリンドウが目立つ。

地図の見方に慣れてきた参
加者が、あと何mと確認し咬
く。また膝の痛みも出てくる。
コスモス園、バスは2台、
既に1台宿舎へ向かった。霧
の中から後の人達が現れる。

遅れた参加者も全員揃い閉
講式となる。五十嵐名誉会長
の挨拶、委員長の内閣挨拶で
本事業の終了となった。

反省点

一、疲労・落伍をみると年令
ではない。各人の生活環境

の中の健康保持への取組の結果が現れる。事前のリーダーからの連絡助言は、初心者トレーニンングなど短期間では難しいが、参加者には大いに効果がある。

二、自主支援班の設置について、委員に対して連絡が無かった。また、状況判断・決断・指示について、鈍さ遅れがあった。自己批判するところだ。

三、支援班の組織について、自主支援を昨年同様得ているが、経費が掛って(難しい)事故無く終わっても設置は必要。今回の自主支援班の活動には大変感謝している。

山岳遭難事故防止。安全登山と中高年対策の一端を担って、僅かな日を当て毎回行錯誤を繰り返しながらの登山教室で、直ぐには効果があるものではないが、参加者の教室経験を経るに従って、登山に対する心構えが少しづつ良い方向に変わりつつあります。

生涯スポーツとして登山を有意義なものにするために、指摘された点を次回に生かさないければと思っています。

終わりに協力をいただいた各山岳会、後援をいただいた新潟県・新潟市など各行政機関等に対して厚く御礼申し上げます。

50周年募金のつづき

副会長

平田 大六

このことについては、ニュース128号(一九九七・一〇・二)

記

○に、協会創立50周年記念特別事業募金報告で、75個人団体総額90万円としてお知らせしたとおりです。

今年になってから左記の方から追加募金がありましたの

で報告します。

ゆきみ山岳会 募金は、昨年をもって終了しておりますが、このようなありがたい場合は、いつでも窓口開かせていただきます。

平成9年度北信越5県 連絡協議会報告

国体委員長

森 庄一

とき・平成9年11月22日(22日)

ところ・富山県上新川郡大山町原「ロッジ太郎」

出席者・新潟県、藤井信、井出秀雄、石田国夫、森庄一、佐藤昭夫

長野県 百瀬尚幸会 長他2名

石川県 西尾聰理事 長他2名

福井県 牧野治生理 事長他3名

富山県 木戸繁良副会長他7名

ゲスト 飯山健治神奈川国体Cルートセッター

木戸副会長の開催県の挨拶の後議題に入り、第18回北信越国体山岳競技会の総括について福井県川端国体委員長から開催までの準備体制について報告・競技会の概要・競技結果が報告された。

次いで反省として、

一、C会場を既存施設としたため、移動距離が長くなった。

二、宿泊施設は、すべてを一か所でまかなえ効率的運営ができた。

三、大会セレモニーの簡素化・接待の簡素化省力化に努めたため、質素な大会となり、華やかさに欠けた。

等の報告があるが、各県からは、簡素化賛成。宿もまあまあ良かった。大切な情報交換・交流の機会である懇親の場は必要であり残したい。円滑な運営のためには競技規則・基準をしっかりと覚え、身に付ける必要がある等の発言があった。

第52回大阪国体山岳競技の総括については、開催県有利は崩れ、Cでは「強いものが強い」という結果が如実に現れた。北信越が弱すぎる。富山大会で北信越が全部入賞するよう努力すべきである。競

技化されたことから、参加するだけではダメで、選手の継続性が必要。選手はブライドを持ってトレーニンングに励んでほしい。ルートセッター・ビレーヤーの養成急務等の意見が出された。

第19回北信越国体山岳競技会の開催について、開催県として日程・会場・今後の日程等について説明を行った。

北信越ブロックのレベルアップと今後の対応についても特にC施設を中心に討議され、各県の現状と選手強化策として、北信越大会の開催の意見も提案された。

ジュニア委員会の取組現状について意見交換を行ったが高体連との調整が必要で、動向を見守るといふ状況である県が大半であった。

神奈川国体クライミング競技ルートセッター飯山健治氏の持参スライドの映写と解説があり、国体にむけたクライミングの動向の情報を得る。

これからの国体は「強いものが勝つ」ということを特に感じた連絡協議会であった。

J A R E 39 O D A

こちらも2月1日越冬交代式が終了し、引継も無事終えました。大きな居住棟などの建設も終了し少し落ちついたところですよ。

自分も鼻の下にヘルベスが
出て今やっと治ってきたよう
です。こちらは空気が乾燥し
ており、こんな時は少し痛い
です。やっと日没が21時15分
頃となり、少しは薄暗い夜を
むかえる事が出来ました。今
までですと日没は無く、ずい
と太陽が出っぱなしで、夜昼
の区別もつかず、いつまでも
仕事をしてしまいます。

これでやっと普通の生活に
もどれそうですが、日の出が
3時過ぎと早く、毎日明るい
日々を送っています。

これからオーロラの季節で
す。最高気温は-2℃～-3℃、
最低で-27位です。風があると
さすがに寒いのですが、風が
無ければTシャツで外を歩け
ます。しらせからの雪上車で
の雪上輸送で、パンダロクし
ました。真っ白な世界です。
そのしらせも、2月15日に

は夏隊と38次隊を乗せて離岸
します。

いよいよ越冬の始まりです。

南極の小田隊員より

元気な知らせが届きました

お元気ですか。

こちらは元気で毎日楽しく
やっております。最高気温-27
℃まだ夏オベの残作業で慌た
だしい日々を過ごしております
ですが、大きな建設作業も終わ
り、少しですがゆとりもでき
ました。2月20日に夏隊と38
次隊を乗せ帰国した「しらせ」
はもう昭和には引寄せない距
離にあり、これで「越冬成立」
となるのだそうです。この日
盛大に福島ケルンの前で越冬
成立式が行われました。

岩広山岳会 小田幸男さん
への南極連絡方法など

平田 大六



ニュース128号(一九九七・
一〇・二〇)で報告しました
が、連絡方法など次の通りで
すので、ご利用ください。

激励お願いします。

○電話 20～23時

ダイヤル 001(87

3) 343198511

国際オペレーター 00

51でオペレーターを呼び

出す

○FAX 20～23時

ダイヤル 001(87

3) 343198541

○電報 常時受付

115で呼び出し「南極

第39次越冬隊員小田幸男」

でゆく。

カムチャッカの高山植物 ⑩

むささび会 加藤 明文

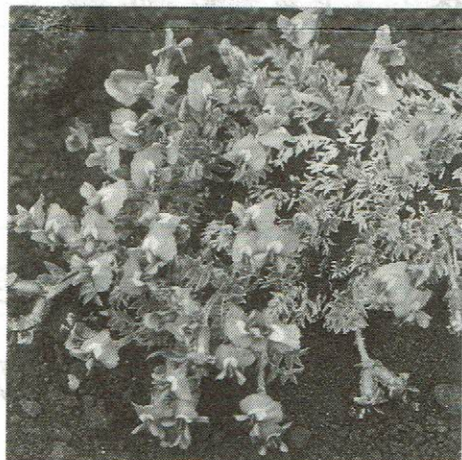
エゾオヤマエンドウ? (マメ科)

分布：不明

白馬岳他にあるオヤマノエンドウは日本固有種であるから別にして大雪山には北方系のエゾオヤマノエンドウが生育している。花も葉も、白い綿毛もまったく同じであるので上記の名にしたが、日本産ではマット状に広がるが、ここでは一株ずつ分かれて咲いているから不安になり?の印をつけた。

トルバチョク山では、ほとんどの植物が生育限界を越えて姿を消したあたりから他の二種と共に一面に広がる。そしてここより上部はまったくの凍土となり苔類ですらまばらになって月面風の世界が広がる。

花の色：紅紫色で花の中心は白



平成9年度北信越ブロック 審判員研修会報告

国体委員長

森 庄 一

第53回神奈川国体からの新競技規則の採用に伴い、審判員の任務が重大となってきたこと、平成10年度には北信越国体が本県で開催されることになってから審判員の養成と質の向上を図るため、北信越ブロック審判員研修会が、平成10年2月21日～22日、上越市の「国民年金健康センター上越」において、日山協国体委員の伊藤・田中両氏の講師を迎え、54名が参加して開催された。

国体山岳協議の概要をはじめ、審判員制度の改定、大阪国体のビデオによる運営の研修、競技基準の解説と近時の動向について詳細な説明があった。

次いで種目毎の共通規則における重要なポイント、審判員規則等について講義があった。

特に施設認定規則のクライミング競技場の基準については、本国体開催に近い富山県、

施設を建築しようと計画している各県からは詳細な質問があり、山岳競技のクライミング設備が重要であることを感じさせる各種の熱心な討議が行われた。

翌22日は、大阪国体のクライミング競技のビデオを基にルートセット、成績の判定、内容、運営等について討議を行った。

さらに昨日に続き、クライミング競技規則について講義があるが、特に審査基準で「未クリップ」「Zクリップ」について論議が多く費やされ、判定方法、規則の表記等について活発な意見交換がなされ、統一的な見解を深める本研修会が意義深いものとなった。

表記等についても、再度日山協でも検討することとし、移行時の大変さを感じる研修会でもあった。

理事会報告

平成10年2月28日に新発田市赤谷において、今年最後の行事である冬山講習会に先立ち理事会が開催され、今年度の報告、新年度に向けての討議がなされ、そのうち主な事項について報告します。

- 1、平成9年度各委員会行事報告
- 2、協会創立50周年事業報告
- 3、平成9年度各委員会会計報告
- 4、平成10年度各委員会行事計画及び会計関係について
- 5、評議員会を4月11日(土)13時から新潟市万代市民会館で開催、理事会は10時より
- 6、第53回国体県予選会を4月25日～26日に北信越国体の同会場で開催
- 7、第19回北信越国体(7月24日～26日 糸魚川市会場)の準備状況報告
- 8、ジュニア委員会の設置について
- 9、スポーツ指導員の検定会の実施について
- 10、クライミングボードの設置について

山岳遭難共済保険の加入

先月号でも案内をしましたが、万一事故発生の際の捜索費用の補足、事故防止の一環として大勢の加入をお願いいたします。

加入申請書の3枚目、事務局へ送付してください。

また、手続等の詳細については事務局に照会してください。

第53回国体県予選会案内

今年北信越国体も本県で開催することになっていますが、同会場で平成10年度神奈川国体出場の子選会を実施します。多数の参加出場を願います。

期日 平成10年4月25日(土)

26日(日)

会場 糸魚川市

縦走競技 塩の道史料館

戸倉山～白池

踏査競技 旧姫川中学周辺

なお役員の協力も依頼することになりますので宜しくお願いします。

登山用品専門店

— 信頼できるパートナー —

大新スポーツ

新潟市東堀6 ☎(025)222-3736

登山・アウトドアの専門店

ICI 石井スポーツ 新潟駅前店

新潟市東大通2丁目5番1号 ☎(025)243-6330(代)